

☆☆東京民医連☆☆ 薬害根絶の会 news

2014年6月中旬発行 No.52

子宮頸がんワクチン 聞いて下さい！被害者の声 ～積極的勧奨再開に反対します～ 院内集会参加レポート

5月29日参議院議員会館講堂は300人もの人で埋めつくされていました。

被害者連絡会の被害実態調査から具体的な被害事例、接種勧奨に用いられた自治体の説明文書の調査、副反応検討部会・安全対策調査委員会の委員たちの利益相反調査、HPVワクチンを含むワクチンの情勢報告がラインナップされていました。

はじめに国会議員の先生方の話…若干「まだ続くの?」と思いましたが、ワクチンの扱いが国策に近いものなのだと感じました。

情勢報告では、HPV ワクチン接種後の副反応についてはフランス国民議会でも取り上げられていること、繊維筋痛症学会理事の西岡医師からは、今秋の学会などでは多くの問題提起がされるだろう状況で、自身も近日中にモスクワの学会でこのワクチン問題について講演を依頼されているとのことでした。「騒いでいるのは日本だけ」ではなく「騒ぎを抑えられているのは日本だけ」なのかもしれません。

被害の実態は以前にも報告しましたが、更に深刻になっていました。記憶障害、計算障害の報告が相次ぎ、海馬委縮、辺縁系脳炎、脳の委縮疑いなど高次脳機能障害の診断を受けた方もいました。「お母さんを一緒に捜してくれませんか?」と実の娘に言われた方もいました。

ワクチンの有効性はWHOも認めている通りだと思いますが、これまでの被害対応では安全性は到底担保できません。若くして被害に遭った彼女たちとその家族が、心から癒される責任ある対応がうけられることが最優先だと強く感じました



今年の薬害根絶デーは8月25日
です♡



～ディオバン事件について考える～

2002年以降、慈恵会医科大、千葉大、滋賀医科大、京都府立医科大、名古屋大による大規模臨床研究結果より、ノバルティス社の降圧剤ディオバンの有用性が大々的に宣伝され、年間売上1000億円(2013年記述)となっています。

しかし、2012年に京都府立医科大の統計学上の異質性が指摘、更に新聞社より、統計処理にノバ社の社員が身分を隠して濫厚に関与していたことがスクープされました。その後、大学内部の調査委員会より「ノバルテルタンに良い結果がでるようにデータ操作されていた」と発表されました。

他4大学全てで同ノバ社員が身分隠匿して統計処理に関与、ノバ社からの奨学金金は全大学合計11億以上、しかも利益相反関係は全大学で公表されていませんでした。

医師主導型臨床研究の問題点、メーカーの悪しき関与、横行する利益相反関係が表面化しました。 つづく予定

第1回 ミニ学習会のお知らせ

薬害C型肝炎元原告 坂田和江さん 講演を開催します。

日時：6月26日 木曜日 15:30~17:00

場所：東京民医連 (ラパスホール2F)

連絡先；たくみ外苑薬局 takumi@gaiki.net

時間内ですが小規模でもこのような機会があればと企画しました。

職場のご協力あってのことですが、是非ご参加ください。